

キャンパスライフ ゼミ紹介

異文化を知る

社会専修 小林聡研究室

四年 赤尾 亮弥

社会専修には、人文地理学・日本史学・東洋史学・法学・社会学・倫理学・社会科学教育といった多くのゼミがあり、社会科学に関する様々な学問に触れることができます。

一年次から二年次にかけて各種の「概論」を履修し、各分野の基礎を学びます。また、二年次には前期に各種の「基礎研究」のうち、興味のあるものを選んで履修し、やや専門的な内容を学びます。後期には各種の「研究入門」が開講されていますが、私は「外国史研究入門」を選択し、東洋史学に関する入門的な文献をいくつか講読するとともに、アジア諸地域に関するインターネット上の様々な言説を批判的に摂取することを学びました。

正式に東洋史ゼミに入るのは三年次になってからです。ゼミの活動は「外国史演習」を中心に行われます。演習では前期に史料講読を学びますが、私たちの学年では『三国志』などの「正史」をいくつか読みました。また夏休みには三、四年生と大学院生が参加する合宿があり、三年生は「卒論で扱

ってみたいテーマ」を発表しますが、私は「東洋史学の立場から見た十字軍」というテーマで発表しました。後期の演習では、合宿で披露した研究テーマに沿って、文献を読んでその内容をレジュメにまとめて報告します。四年次になると、今まで蓄積してきた知識をもとに本格的に卒業論文の作成に入ります。今までの先輩方のスケジュールを見ると、一月中旬に卒論を提出し、二月上旬か中旬に卒論発表会で成果を報告することになるようです。

ゼミの運営については、ゼミ長・副ゼミ長・合宿係・コンパ係と役割を分担しながら仕事を行うことで最大限力を発揮できるようにしています。私はゼミ長として、ゼミ生のモチベーションを維持し、ゼミが盛り上がるように努力してきました。そんな私の一番の思い出はゼミ合宿です。先輩や後輩と授業で会うことは少ないですが、合宿では花火をしたり海で遊んだりして、皆で存分に楽しみました。また、先輩の卒論発表会では、会場設営や司会進行などの業務を自分たちの三年生が務め、うまく進むように様々な工夫を凝らしました。その後の打ち上げコンパでは卒論や将来のことなどを話し合い、とても楽しい時間を過ごしました。

対話的な学びの場

心理・教育実践学専修 堀田香織研究室

四年 加藤 僚

心理・教育実践学専修の専任教員の方々は皆さん面倒見がよく、とても頼りになります。中でも学生に寄り添い、ご指導くださるのが堀田先生です。ご専門は臨床心理学で、家庭と学校の関わりについて研究されており、今年度末で定年退職されます。私たちは堀田先生の豊富な経験や知識、それらをもとにしたご指導を通して教育に関する知見を広げること、レポートや論文のブラッシュアップを行うことができました。四年間の集大成である卒業研究についてもよくできているところはよく褒め、改善を要するところはアイデアをくださるといふ堀田先生のご指導もあり、順調に進めていくことができました。

研究室での学びとしては、三年次には卒業研究に向け、臨床心理学領域の文献を輪読することや卒業研究を見据えたゼミ論文の執筆を行いました。文献の輪読では、学生それぞれが読んだ箇所についてレジュメを作成し、発表を行いました。学生同士で質疑応答を行いました。堀田先生からも意見をいただいたことで、卒業研究で用いる調査方法や臨床心理学について深く学ぶことができました。またゼミ

ミ論文の執筆では、学生それぞれが設定した研究テーマに沿って取り組みました。三年次にまだ慣れない研究に取り組むということでは不安はありましたが、研究室という活発な意見交換の場を設けてくださったこと、堀田先生の確かなアドバイスがあり、全員が執筆を終えることができました。

四年次には主に卒業研究を行ってきました。多くの学生が三年次に執筆したゼミ論文をベースに研究を行っていきます。これは他の研究室と大きく異なり、この研究室の魅力でもあります。前述のように三年次に研究を行うことに対しては不安がありましたが、この経験があったことで、四年次の卒業研究は、他の研究室に所属している学生よりもスムーズに取り組むことができました。

またこの研究室の魅力の一つとして、学生同士、先生と学生のつながりが深いということが挙げられます。これまでに堀田先生を含めた堀田研究室のメンバーでご飯を食べに行ったり先輩方や後輩との親睦会を行ったりしてきました。このように授業外でのつながりがあることでお互いのことを知ることができ、親しくなることができました。この深いつながりがあるからこそ、発表での意見交換が活発になり、お互いに学び合うことができたのだと思います。

